

## 百里に米軍機来るな

(百里平和委員会ニュース 122号より抜粋)



## 騒音・危険を全県に拡大



### 協定を結ぶというが

小美玉、鉾田、行方の3市と東京防衛施設局が、訓練移転を受け入れる条件となっていた協定の締結案をまとめた昨年11月9日(朝日新聞)に報道されました。

それによれば、日米で合意した「年4週間以内。1回の訓練期間3~15日」という条件も盛り込まれ、将来の自衛隊と米軍との共同訓練拡大に一定の「歯止め」をかける形になっているとのこと。原案は共同訓練の対応のほか、騒音対策、安全対策、地域振興の4つの柱で成り立っているとのこと。

私たちはこれらの動きを住民の立場から監視し、問題を指摘していかなければなりません。

### 80万人の鉄道を廃線し80万人の空港に500億円を投入

石岡と鉾田を結ぶ「鹿島鉄道」の廃線が年末に確定しました。

1日2200人、年間80万人が利用する地域の公共交通機関が消えていきます。鹿島鉄道の存続は10億円あれば可能で、年間の公的支援額も新会社に移行すれば5千万円以内に納まる見込みでした。

### 今年度は100億円を投入

百里基地の民間共用化には、国と県合わせて530億円(当初見込)の税金が投入されます。年間利用客は国交省の推定(もちろん過大な)で80万人ですから、鹿島鉄道と同じレベルの利用にもかかわらず、一方は10億円が無くて消え、もう一方は530億円の巨費が投入されるわけです。2006年度は国予算が45億円、県の予算が51億円投入されています。県予算の多くはアクセス道路建設と空港テクノパーク(工業団地造成)に注ぎ込まれています。県の水戸土木事務所空港関連事業推進室によれば、アクセス道

路(常磐道岩間インターと東関東道水戸線茨城南インターと空港進入道路)の進捗率は、53%とのことで2001年度から着実に整備を進めてきました。

「茨城県から全国の空へ」「北関東の空の玄関」などとうたっていますが、航空会社が千歳、大阪、福岡、沖縄(就航予定と宣伝している)への定期便を出すかどうかは不確実です。成長重視の「開発」よりも安心快適な「生活」を重視した政策に切り替えるべき時です。

### 騒音問題で要望書

昨年9月27日に小美玉、行方、鉾田の3市長と3市議会議長が百里基地を訪問し、宮代久也基地司令に「戦闘機訓練の騒音への配慮などを求める要望書」を提出しました。要望書には、通常訓練は早朝や昼休み、夜間及び土、日、祝祭日の飛行は行わない。市や地域からの要望による葬祭時や入学式や卒業式時には飛行しない。また、飛行コース(学校周辺上空は飛行しない)や安全飛行の徹底を図るなどとし、速やかに協定等を締結することなどを求めました。

これに対し、宮代司令は「配慮したい」と応じるにとどまったということです。要望書には回答期限も設けていないということですから、このまま無視されることは明らかです。「米軍訓練移転にともなう協定」に本気で入れようとするなら別でしょうが。

### 来年度から訓練を強行

2007年度中に日米が移転先に決めた6カ所すべての基地で、それぞれ複数回にわたり訓練が実施されます。4月前にも1~2カ所で実施されるという情報もあります。

嘉手納、岩国、三沢の米軍機が自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城、新田原基地で、共同訓練という形式で行います。米軍機と自衛隊機の各6~12機で最大14日間の訓練の予定です。訓練移転のために、飛行経費、輸送費、施設調査費など約4億円の予算を計上しています。

### 地域振興策51億円

政府は来年度予算案に在日米軍再編経費として314億円を計上しています。また政府・与党は来年の通常国会で、再編計画の進捗状況に応じて関係自治体に交付金を出す「在日米軍再編促進法案」の提出を狙っています。来年度の再編経費には、同法案に基づく「再編交付金」51億円も盛り込んでいます。



平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

463

月3回発行

2007.2.15



# ヒロシマ・ナガサキ被爆62年 被災53年2007年3・1ビキニデー集会

原水爆禁止運動の全国的出発点、3・1ビキニデー集会在2月27日から3月1日まで、静岡県下の静岡市、焼津市の二つの都市で行われます。茨城県原水協は例年同様取り組めます。参加希望者は2月21日までに連絡下さい。

3・1ビキニデー集会（3月1日）  
 献花墓参平和行進  
 9時30分 JR焼津駅南口前・集合  
 3・1ビキニデー墓前祭  
 10時30分 開始 於：弘徳院  
 3・1ビキニデー集会  
 時間 13:00～15:30  
 開場 焼津市文化センター・大ホール

### \*\*\* 関連行事のご案内 \*\*\*

日時 2月27日(火) 14:00～17:00  
 会場 静岡市グランシップ  
 3・1ビキニデー日本原水協国際交流フォーラム

開催日 2月28日(水)  
 3・1ビキニデー日本原水協全国集会  
 全体集会 13:00～15:00  
 分科会 15:30～18:30  
 青年フォーラム 15:30～18:30  
 平和でナイト2007～青年の手による交流企画です～  
 時間 18:45～  
 ビキニ水爆被災事件の解明をめざす研究交流集会  
 時間 18:45～20:45  
 会場 いずれも 静岡市グランシップ会議室  
 宗教者交流集会 時間 14:00～  
 会場 焼津かんぼの宿



## 名著『0の暁』と50年ぶりに再会

「1945年7月16日朝5時30分、日の出の数分前、地球史上の新しき日「原子時代」の幕は切って落とされた。所はニューメキシコ州アラモゴルドから約50マイル離れた半沙漠地帯である。」から始まる強烈な印象は50年前、私の脳裏に鮮明に刻まれたものと変わっていません。

昨年の秋、ウイリアムL. ローレンス著『0の暁』の翻訳者である、崎川範行東工大教授の訃報を新聞で接した。わたしがこの本と出会ったのは、中学を卒業して夜間高校に通いはじめ、昼間は東工大の研究室で働いていた1955年（昭和30年）ごろであった。わからない箇所も多々あったがこの本の「とりこ」になってしまった。あとでじっくり読もうと思っているうちに、数年で職場を

去ったのでそのままになってしまった。その後、いくら探しても手にはいらない。そうこうしている内に50年近く、時の流れは過ぎてしまった。3～4年前、ふとした事から県立図書館にあることがわかり読むチャンスを伺っている時、崎川さんの死に接し改めて「読み直した」。

内容の紹介は、訳者のつぎの言葉で充分であろう。

「この書は人類史上最大の出来事である原子力の解放を、著者が自らの体験を通じて記録し描写した偉大なドキュメントである。・・・著者ローレンスはアメリカにおける原子爆弾計画に参加を許されたただ一人のジャーナリストである。従ってこの種の記録書を作り上げることのできる人物は、彼を除いては世界に一人もいないのである。彼はこの計画に参加して、すべての指導的科学家と接し、すべての工場及び研究所を見学し、原子爆弾その物を目撃し、そしてその爆発の光景を自ら観察すること4回に及び、さらに長崎爆撃作戦に同乗してその観察記録をとっている。これだけのべれば本書のもつ意義と価値に就

いて多くを語る必要はないであろう。」と。

核兵器廃絶が人類の要求となっている今日、どのようにして原爆が誕生したのか。この事を社会的・科学的な状況を検討することは運動を前進させるために必要な事である。そのために必読の書となる最適なテキストである。

（伊達）

## 心を新たに

美和緒川平和の会



恒例になっている美和緒川平和の会新春のつどいは1月28日「トライブインふるさと」において開かれ、20名が参加しました。皆元気で張りきってました。まず小林会長から「昨年は教育基本法の改悪と防衛庁の省への昇格が国会を通り政治が益々悪い方向に向かいキナクさい感じがする。しかし最近のヤフーの世論調査で憲法改正反対60%に上ったと報じられたように、自公政府の悪性に反対する勢力も大きくなっている。確信を持って今年も頑張っていこう」とあいさつがあり、次いで堀江市議から常陸大宮市に合併以来、住民の負担が増えている実情について報告がありました。

前日の「九条の会・かさま」の集会には本会から3名が出席しました。代表して小室事務局長より伊藤真の講演の内容について説明がありました。

今、本会は「大宮九条の会」結成をめざしてしているわけで、これからの取組みについては役員で協議していくことになりました。後は懇親会に入り、平和のこと、市政のことなど、なごやかに話し合っ楽しい時間を過ごし、心を新たに前進することを誓い合いました。

**事務局便**

「は風邪ひかぬ」と言われているが、・・・ついに私と加藤さん「タミフル」のお世話になった。会員の皆さんが晴天の下百里公園で、笑顔や懐かしさ、話や飲、食べ物で、同じ思いをくみ交わしているとき四十度近い熱をだし、「うんうん」と唸っていた。なんとも情けない。さぞおいしい酒飲んだらうなあー皆さん気をつけましょう（ま）